

14 水 産

| | | |
|--------|----------|----------------|
| 「小型船舶」 | 単 位 数 | 2 単 位 |
| | 学科・学年・学級 | 海洋バイオ類型 第3学年A組 |

1 学習の到達目標等

| | |
|------------|--|
| 学習の到達目標 | 小型船舶の操縦に関する知識と技術を習得させ、安全かつ適切な操船を行う能力と態度を育てる。 |
| 使用教科書・副教材等 | プリント |

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

| 学 期 | 学 習 内 容 | 月 | 学 習 の ね ら い | 備 考 (学習活動の特記事項, 他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など) | 考 査 範 囲 |
|--|---------------------------|----|--|---|---------------------------|
| 第1学期 | 一般常識 操縦の心得・船長の心得 | 4 | 船長が負わなければならない義務・責任およびリーダーとしての船長の心構えを理解する。 | 【基礎的実技】 エンジンの始動・停止 【応用実技】 普通の変針は15度、・緊急時は35度、・高速時は10度以内で行う | 第1学期末 期 末 考 査 |
| | 船体・設備及び属具 | 5 | キール、舵、材質、船首、尾部の部位名と小型船舶法定備品の名称を学習する | | |
| | 機関 機関の整備及び取り扱い | 6 | 始動、運転、停止の安全な操縦法を理解する。 乗船前、乗船後、始動後、の点検の必要性を理解する。 | | |
| | 発航前の点検 発航前の点検 点検の方法 | 7 | 船体運動のうち停止惰力、最短停止惰力、旋回圏を学習してプロペラと舵の作用を理解する。 | | |
| 操舵 操縦装置の機構 操縦の基本 | 7 | | | | |
| 【課題・提出物等】 授業の中で使用したプリントおよびノートを提出する。 | | | | | |
| 【第1学期の評価方法】 1 期末の定期考査の成績、プリントなどの提出物、ノートの内容、出席状況、学習活動の意欲・姿勢、実技の技術修得度、実習服の着用状況、等で評価する。 2 定期考査の内容を50%、授業の参加状況を20%の配分とし、さらに実技試験を30%として加味して総合的に評価を行う。 | | | | | |
| 第2学期 | 発進・停止・直進 | 9 | 発進直前の確認事項を理解する | 【応用実技】 舵中央、周囲の安全、リモコンレバーの操作 前進、後進、中立の操作を行う | 第2学期 |
| | 旋回・蛇行 変針・後進 | 10 | 新針路距離、キック等船体運動について学びその場回頭法を理解する。 | 【応用実技】 変針する場合はその方向の安全確認を行う。 | |

| | | | | | |
|--|--------------------------------------|---|--|--|---------------------------------|
| 第 2 学 期 | 小型船の係留 結索、係船索 係留・解らん 錨の取り扱い | 11 | ビット等に係留するときの結索等について学習する。 アンカーの種類、アンカーロープの取り扱いについて学習し、投錨法を理解する | 【応用実技】 船に応じた旋回時の動きや舵効の量を知り、当舵の量を覚える 【応用実技】 後進時の偏向を極力おさえる。 【総合実技】 係留は機敏に行う 【総合実技】 風潮流、発進方向などを考慮して係留策の長さ、係留方向を決める。 【応用実技】 アンカーとアンカーロープは常に整理整頓していつでも使えるような状態にしておく。 使用後は泥などをきれいに洗い流して収納する。 | 期 末 考 査 |
| | | <p>【課題・提出物等】 授業の中で使用したプリントおよびノートを提出する</p> <p>【第2学期の評価方法】 1 期末の定期考査の成績、プリントなどの提出物、ノートの内容、出席状況、学習活動の意欲・姿勢、実技の技術修得度、実習服の着用状況、等で評価する。 2 定期考査の内容を50%授業の参加状況を20%の配分とし、さらに実技試験30%ととして加味し総合的に評価を行う。</p> | | | |
| 第 3 学 期 | 航海計器 磁気コンパス レーダー | 12 | 使用上の注意、機構と操作を学習する ハンドコンパスの取り扱いについて学習する | 物標の方位を読み取る。 | 第 3 学 期 末 考 査 |
| | その他の計器 ハンドレッド | 1 | ロラン、GPS、六分儀、クロノメーターについて学習する 航行中の水深の測り方を学ぶ | 低速時に則深する。 錨地の低質を知る。 | |
| <p>【課題・提出物等】 授業の中で使用したプリントおよびノート</p> <p>1 期末の定期考査の成績、プリントなどの提出物、ノートの内容、出席状況、学習活動の意欲・姿勢、実技の技術修得度、実習服の着用状況、等で評価する。 2 定期考査の内容を50%、授業の参加状況を20%の配分とし、さらに実技試験を30%ととして加味し総合的に評価を行う。</p> | | | | | |
| <p>【年間の学習状況の評価方法】 1 1・2学期の定期考査の成績、プリントなどの提出物、ノートの内容、出席状況、学習活動の意欲、姿勢、実技の技術修得度、実習服の着用状況、等で評価する。 2 定期考査の内容を50%、授業の参加状況を20%の配分とし、さらに実技の技術修得度を30%ととして加味し総合的に評価を行う。</p> | | | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| <p>確かな学力を身に付けるためのアドバイス</p> | <p>船長として小型船舶の安全確保を自らの手で行うことができる運行技術に必要な知識や技術を身につけるために、実技・実習等を通して具体的な理解を深めなければならぬ。小型船舶の船長として大型船の船長と同じ大きな責任があることと、海上交通の特殊性を十分理解して意欲的に学習に取り組んでほしい。</p> |
| <p>授業を受けるに当たって守ってほしい事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守（5分前集合の励行） ・実習時の服装は、規定の実習服・実習帽を正しく着用すること【評価の対象】 ・体調管理に万全を期すこと。万一、体調不良の場合は事前に申し出ること。 ・小型艇実習では危険を伴う内容があることを十分理解し、安全性を常に念頭に置いた実習態度を心がける。 |

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
|-----------------|---|---|
| <p>関心・意欲・態度</p> | <p>安全かつ適切な操船について関心を持ち、その基礎的な知識・技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけようとしている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に対する参加の仕方や態度 ・ノートの内容 ・プリントなどの提出物 |
| <p>思考・判断</p> | <p>安全かつ適切な操船について自ら思考を深め、その基礎的な問題解決に向け、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・実技の内容 ・課題 ・発表の内容 |
| <p>技能・表現</p> | <p>安全かつ適切な操船の基礎的な技術の習得や調査・研究などの実践活動について、それらを的確に表現することができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・実技の内容 ・課題 ・発表の内容 |
| <p>知識・理解</p> | <p>安全かつ適切な操船の基礎的な知識を身につけ、自船の安全確保を自ら手で行うことができる運行技術に関する知識と技術を理解している。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・実技の内容 ・課題 |

3 担当者からのメッセージ

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・小型船舶について基本的な内容で構成された科目であり、船長として小型船舶を安全かつ適切に操船を行うために必要な知識と技術であるから、しっかりと身につけてほしい。 ・実技の場合、自然を相手にするのでその変化・動きをしっかりと体で感じとり、かつそれに素早く反応できるような感性を持ってもらいたい。 ・海上における実習は危険を伴うので指導者の指導や注意には確実に従い人命の安全や事故防止等に関する意識を高めてほしい。 |
|---|